

第97回 経営協議会 議事要録

日 時 令和8年1月27日（火）15時20分～17時00分

場 所 本部棟第二会議室・オンライン

委 員 日比野克彦 学長【議長】、
大塚直哉 理事（教育担当）、岩田広己 理事（研究担当）、
君塚 剛 理事（総務・施設担当）・事務局長、
武藤弘和 理事（経営改革・財務担当）、
高橋陽子 委員、林 千晶 委員、二宮雅也 委員、御立尚資 委員、
矢内 廣 委員、湯浅真奈美 委員、吉本光宏 委員

陪 席 国谷裕子 理事、麻生和子 理事、前川祐賀子 監事、茂木哲也 監事、
今村有策 副学長（国際連携担当）、
海老 洋 副学長（伝統継承・150周年担当）、
藤原道山 副学長（伝統継承・150周年担当）、
橋本和幸 美術学部長、杉本和寛 音楽学部長、
桐山孝司 大学院映像研究科長、毛利嘉孝 国際芸術創造研究科長、
松下 計 附属図書館長、黒川廣子 大学美術館長、
伊藤達矢 社会連携センター長

欠 席 熊倉純子 大学院国際芸術創造研究科教授、
光井 渉 副学長（教育担当）【陪】、福中冬子 副学長（研究担当）【陪】、
箭内道彦 学長特命（大学改革・ブランディング戦略担当）【陪】、
亀川 徹 演奏芸術センター長【陪】

議題

なし

懇談事項

- （1）今後の大学運営の在り方について
議長から標記のことについて、資料に基づき説明の後、意見交換が行われた。

報告及び連絡事項

- （1）本学の活動近況等
議長から芸術文化における本学の近況について報告があった。
- （2）余剰金の翌事業年度への繰越しに係る承認について
標記のことについて、武藤理事から資料に基づき報告があった。

(主な意見等)

- 寄附者の意向が強いため、要望に沿わない場合に寄附の引き揚げなどのトラブルにならないか心配である。
- 寄附者の要望が多すぎると感じており、寄附した後は大学の自由に任せるべきである。
- 寄附者の要望に対し、何が必須で何が努力目標（ベストエフォート）なのかを明確に把握しておくべきである。
- 大型寄附に伴う事業を推進するための新たな人材確保が必要であると思うが、現行の美術館組織で回していけるか心配である。
- 2028年に展覧会を開催するためには、準備期間が短いのではないかと思う。
- 既存の組織とどう接続し、この基金があったからこそ何ができたのかを明確に示す必要があると思う。
- 歴史的な大型寄附を高く評価する一方で、年間の運用報酬（経費）で、目標とする国内外の株式・債券運用が現実的に可能なのか心配である。
- 「毎年確実にこれだけの利益が出る」という前提で議論するのは危険であり、運用益のばらつきを許容できるキャッシュフロー管理が必要である。
- 低コストで確実な運用方針をプロに提案させるべきである。
- 現在の資産構成と市場環境を鑑みると利回り目標と事業経費の妥当性を慎重に検証すべきである。
- 寄附者の要望は「83歳の大人目線」のハードウェア中心の内容だが、それを「15歳の子ども（次世代）が夢を持てるソフト」へと昇華させるような働きかけを期待している。